

総合的な学習における学ぶ意欲を育むデジタルポートフォリオ評価

和歌山県有田郡広川町立津木中学校

おおはしのぶゆき
大橋信之

【実践の内容】

本校では、総合的な学習の時間において、ホタルの飼育活動と関連させた水環境保全学習を行っている。この学習を通して、生徒が自分のよい点や可能性に気づき、成就感をもちながら「自ら学ぶ意欲」を高めることができるよう指導と評価の在り方について究明した。

研究においては、興味関心を喚起する課題の設定や具体的な評価指標に基づくデジタルポートフォリオ評価、表現方法の工夫などにより一定の成果を得た。

【論文内容の紹介】

1 学習過程に即した評価の観点

学習指導要領のねらいから学習過程に即した達成度を示す具体的な評価指標（ルーブリック）を作成した。このような評価指標を生徒と指導者が共有することによって、毎時間の目標が明確になり、よい点や進歩の様子ははっきりとわかった。

2 課題設定の工夫

課題設定では、自ら見付けたという意識を高めるために KJ法 やウェビング（webbing）法といった発想法を取り入れ、一人一課題を設定させた。特定のテーマから自由にキーワードを連想し、やってみたい活動を広げていくことで、生徒の興味関心や知的好奇心が高まった。

3 デジタルポートフォリオによる振り返り

課題の追究過程でとりためた写真や映像、文章、メモ、評価カード等はコンピュータに

一元的に保存し、プレゼンテーションソフトでまとめながらデジタルポートフォリオを形成した。

評価カードは、簡単で変容が一目で分かるようにレーダーチャートで表示した。生徒はデジタルデータによるポートフォリオを振り返り、指導者の助言によって速やかに学習の軌道修正をすることができた。

4 『学習掲示板』でのポートフォリオ・自己評価の開示

毎回の学習成果や自己評価は印刷し、『学習掲示板』として提示した。生徒はこれを見ながら同じような内容の課題があれば連携したり、共同で追究し、互いの連帯感を深めた。

このように自他の学習成果を共有することで、それぞれのよさや成長に気づくとともに、自分自身を客観的にとらえ、自己評価力を高めていくことができた。

5 相互評価による表現力の高まり

プレゼンテーションスキルは、ビデオで振り返りながら繰り返し指導した。成果発表時には相互評価で互いの達成レベルを評価するとともに、具体的なアドバイスを書くことによって、自他の課題が明らかになり表現力を高めていった。

6 研究の総括

本研究を通して、どのような力をどこまで高めるかという具体的な評価指標（ルーブリック）を基に、デジタルポートフォリオによる学習と振り返りを行えば、主体的な学びとなることが明らかになった。本研究のように個人で課題追究をさせる場合、デジタルポートフォリオづくりは一人ひとりの創意工夫が生かされるという点で大変有効であったと考える。今後、デジタルポートフォリオの蓄積をデータベース化し、全校生徒が情報を共有できる環境を整備したいと考える。